

クラス番号	619	担当教員名	宇佐美 千鶴
テーマ	高齢者の生活支援における SW の役割 －本人が決めるプロセスを支える連携と協働－		
著書・論文 研究課題等	<p>【著書】「チームの連携力を高めるカンファレンスの進め方」(第3章担当執筆、日本看護協会出版会 第2版 2015)、「ケアマネジメントの実務」(第2章第5、6担当執筆、新日本法規 2012)</p> <p>【論文】 宇佐美千鶴、篠田道子「ケースメソッド教育を用いた多職種連携教育の学習評価の検討」日本福祉大学社会福祉論集(2013) , 第128号 115-132</p> <p>【研究課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多職種連携教育の学習評価の検討 ・多職種参加による「看取り期の振り返りカンファレンス」実施と評価 		

ゼミナール概要

キーワード：利用者・患者主体、地域福祉、連携と協働、終末期ケア

目的、内容、方法等：

2年間を経て、高齢者が地域で生活を送るなかで生じる様々な葛藤や課題を、ソーシャルワークの視点から捉え、その対処策を具体的に考えて、行動できる力を獲得することを目指します。

具体的には、①支援の主体と対象を理解すること、②ケアに関わる団体・組織・専門職の役割と実際を理解すること、③地域ケアネットワークの現状と課題を理解することです。

このゼミでは、高齢者の主体的な地域生活を支えるためには、多機関・多職種連携と協働のなかでソーシャルワーカーに求められる役割について考えます。私は「知識」や「技法」は「価値」とつながったときに、はじめて実践に活かされると考えています。文献学習やディスカッションから習得した知識や培った価値は、実践にどのようにつながっていくのかを事例検討などを行って丁寧に確認したいと思います。

また、多様な機関・職種の人々と連携や協働する力を習得するため、文献学習やレポート作成を通して自分が伝えたいことがきちんと伝えられるよう「表現する力」と「文章を書く力」を磨きます。そしてディスカッションを通して「伝える力」と「観察する力」を高めます。地域生活を支えるためには、キャベツ一玉の値段から活用できる様々な制度まで興味や関心をもつことが大切です。好奇心豊かに広く物事を考えられるように、フィールドワークを行いたいと考えています。

授業計画：詳細はゼミ生と相談して決めます。

○3年前期では、上記のテーマに関する資料や文献を読み、基礎知識の習得を目指します。方法は、毎回報告者が資料や文献の要約を発表し、それに基づき話し合いを行うことで知識を深めます。その際、レジユメの書き方や問いのたて方を学びます。

○3年後期では、実習で体験した事例やケース教材（地域）をとおして、ソーシャルワークの視点からディスカッションして課題解決能力を高めます。その際、知識や価値は実践にどのようにつながるのかを確認します。

○4年生では、卒業論文の執筆と国家試験に向けた準備を行います。後期までに卒業論文を提出することを目標とし、その後は国家試験などに集中したいと思います。卒論の中間発表を予定し、皆で感想等を伝え合います。

○この他、ゲスト講義や地域で暮らす当事者のもとへの訪問、そして地域の様々な機関（施設や事業所、行政など）に赴く見学やインタビュー調査等のフィールドワークを予定しています。

担当教員からのメッセージ



ゼミの場は、皆さんとともにつくり上げるものです。ですから、主体的な参加を求めています。ゼミ生間、ゼミを通して出会う人々のさまざまな価値観にふれて、ともに成長を育みたいと思います。

わからないことをわからないと聞ける雰囲気づくりを大事にしたいと思っています。はじめは、誰でも自信はないものです。臆することなく、コツコツと努力を積み重ねて力をつけていきましょう。

「厳しさ」と「楽しさ」のメリハリをもって、充実した2年間を過ごして欲しいと思います。